

現在一過去一未来

望 田 明 利

初めに

自叙伝、軽い気持ちで引き受けましたが、ネットなどで内容や書き方などいろいろ調べても、何を書けばよいのかわからず時間だけが過ぎ去っていきます。締め切りが目前にせまり、自叙伝のルールを無視して現在から過去にさかのぼってまとめ、最後に未来についてつれづれなるままに筆を進めました。

退職後～現在

2010年（平成22年）10月、65歳で永らく勤めた住友化学園芸株式会社を退職し、自由気ままな生活、「晴耕雨パソコン」の生活を始めるつもりでしたが、その通りにはいきません。元会社での病虫害などの電話相談、緑の相談所などでの講習会などなどアルバイトのかたわら約40年間お世話になった家庭園芸の業界のために花育教育、（公社）園芸文化協会理事、（公社）日本家庭園芸普及協会認定のグリーンアドバイザー講習会講師など微力ながら恩返しの活動を続けています。

家庭菜園。15年くらい前から市民農園で始めたのがきっかけで、自宅から約7km程度離れた農家より当初は50坪借りてスタートして、今は約300坪強の畑を楽しんでいます。自宅で消費するのは数%、サツマイモ掘り、ミニトマト取りなど子供に楽しんでもらおうと、孫や小児のいる知人などに声をかけています。

全国河川遡行クラブという変わった会の関東支部長（本部は広島県福山市）をやっています。春と秋の連休時に開催され、全国の一級河川を河口から源流に向かって歩く会です。2000年に利根川を遡行する記事が新聞の地方版に小さく載っているのに気が付いたのがきっかけです。春に銚子の河口から前橋まで、秋に前橋から八木沢ダムまでの約322kmを7日間で歩きました。今春、関東では最後の川になった荒川を葛西臨海公園から秩父湖の二瀬ダムまでの約161kmを4日間で、私はサポートカーの運転手で参加しましたが、昔のように50～60km/日を歩くのは無理です。

会社員時代

1) 入社時の思い出と園芸の変革ポイント

1970年（昭和45年）に卒業、当時は高度成長期だったため就職に困ることはなかったです。特に応用昆虫学研究室は野村健一教授が農業用害虫の防除や抵抗性などの研究を行っていたため、農薬メーカーから直接先生あてに多くの求人がありました。その中で、武田薬品工業（株）が農業用以外の家庭園芸分野に進出したいための求人依頼があり、面接の結果採用されました。

就職する前年の1969年（昭和44年）10月に武田園芸資材株式会社（タケダ園芸⇒住化タケダ園芸と社名を変更し現在は住友化学園芸株式会社）が創立され、翌年4月に入社のため、初代社員といった感じです。当時は常勤は専務以下6名（内女性1名）という小企業の会社。当初はピレトリン・ロテノン・BHCの3成分混合のエアゾル式殺虫剤のベニカ、マラソン乳剤、ベニカ乳剤（マラソン・除虫菊乳剤）、ダイン（展着剤）の4品目しかなく、昼間は営業して夕方帰社後にダイレクトメールの封筒詰めなど21時ごろまで勤務、土・日曜日はデパート園芸売り場などで宣伝販売という状態が6月まで休みなく続き、会社員とはこうゆうものかと特に違和感はありませんでしたが、最近話題になるブラック企業そのものでした。夕食も会社がカツ丼やなべ焼きうどんなどを出前で取ってくれ、給料をもらっても使う時がありませんでした。7月に入ると春の園芸シーズンが終わりになり、やっと人並みに定時に帰れるようになりました。

当時の家庭園芸は盆栽、東洋ラン、ツバキ、サツキなど古典植物や花木などが中心で、販売場所は東京では日本橋三越本店、大阪では阪急デパートなどデパートの園芸売り場が中心でした。薬剤も殺虫剤はマラソン乳剤、スミチオン乳剤など、殺菌剤はダイセン水和剤などで農業用の製品がそのまま販売されていました。その中で、言葉は悪いですが店の奥に陳列されていた地味な製品から家庭用消費材としては当たり前の色艶やかなデザインのリベルを貼った製品が目立つ場所に陳列されるようになりました。同時に園芸シーズンにはデパートの園芸売り場や園芸店で来店されたお客様に店頭での宣伝販売などの営業活動を積極的に行い、

人々の目に留まり、徐々に認知され「家庭園芸農薬の夜明け」といっても過言ではないと思われました。折角好スタートを切ったのですが夏にBHC問題が起き、主力製品のベニカにも入っていたため対応に振り回されましたが、直ぐに代替品のベニカ7を上市することができ安心したものです。

会社員時代を今から振り返ってみますと園芸業界で大きな影響を与えたポイントが3点思い浮かびます。

第一点目は1973年（昭和48年）4月にNHKの月刊誌『婦人百科』の一部であった園芸の記事が『趣味の園芸』として独立して創刊されたことです。日曜日の総合テレビの朝の時間に放映された「趣味の園芸」のテキストでもあったため注目され、同月に主婦の友社からも『園芸ガイド』という月刊誌も創刊され、出版業界でも家庭園芸が注目されました。家庭園芸が盛んになるに伴いクミアイ工業株式会社、北興化学工業株式会社、日本農薬株式会社、三共株式会社など主だった農薬メーカーも本社あるいは子会社から家庭園芸用分野に参入し、競争が激しくなってきました。

第二点目は販売ルートの問題です。従来の園芸・種苗店から1972年（昭和47年）に埼玉県与野市にホームセンター「ドイト」が初めて日本にオープンし、全国各地に広がっていきました。園芸コーナーも充実し、1990年代には家庭園芸農薬の70%以上がホームセンターで販売されるようになりました。

第三点目は1990年（平成2年）に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」を境に園芸の内容が変化し、園芸の中心が男性から女性に変わっていったことです。『趣味の園芸』での1987年と1997年の読者アンケートでも購読者の傾向が男性65%から35%に女性が35%から65%に入れ替わり、家庭で楽しんでいる植物の種類が盆栽、庭木など古典植物から鉢花、草花・花壇になったことです。薬剤関係も手間のかかる薄めて使用する製品よりも手軽に使える製品が主流になりました。

これら家庭園芸の質や内容の変化、流通の変化に逆らうことなく次々と新製品を出品し、販売ルートを充実したため、売り上げは倍々で伸びるような状態が続き、一度も前年割れを起こすことなく毎年伸び続けました。

2) 会社で行ったこと

入社当時は少人数のため営業も数年間担当していましたが、入社2年後には開発見習いのため武田薬品工業株式会社の農薬事業部開発部に机をもらって開発の手順や方法などを1年間教わりました。営業の傍ら、

ラベルの原稿、製品チラシなどの販売資料の原稿作成など普及関係の仕事、開発方針や開発スケジュール作成、更には農業試験場などを訪問しての試験依頼まで一人で何役をこなす状態でした。人が増えるにつれ普及・開発部門関係の責任者として、徐々に開発の主体を武田薬品工業からタケダ園芸で行うようになり、他の会社からの製品導入や開発製品に使用する原体の導入などの仕事も増えてきました。最後まで武田薬品工業にお願いしていた製剤研究も1993年（平成5年）に浜松市に研究所となる製品開発センターをオープン、農薬登録も自社で行うようになり、開発関係を自社中心で行える体制ができました。

仕事上での思い出ですが、会社設立10年目の1970年に陣頭指揮で会社を引っ張ってきた専務が勇退することになったことです。自宅は大阪で、単身赴任で東京に住んでいましたが、一番早く入社し、毎日社内の掃除もし、一番最後に帰るという人でした。専務が担当していた広告宣伝物等の仕事を引き継ぐ人が社内にはいないため、それらも担当することになりました。右も左もわからない分野を担当するといっても教えてくれる人はなく、デザイナーや広告代理店、印刷会社の担当者に聞いたり、書籍から学び独学で勉強しましたが、開発普及関係と兼務のため土日も出勤して苦労した時期もありました。

毎年新製品を数品目発売し続けましたが主な製品としては創立翌年の1971年（昭和46年）には業界初の殺虫殺菌エアゾールのベニカAや液体肥料を販売し、昭和電工からコーティング肥料を導入してエードボールという名称で販売。1972年（昭和47年）には除草剤のクサノン粒剤、1974年（昭和49年）には今でも販売しているオルトラン粒剤やベンレート水和剤、1976年（昭和51年）にはアリアツールなど多くの製品を開発あるいは導入しました。2010年（平成22年）から発売したベニカXファインスプレーが開発普及部長として最後の開発製品になりました。

開発製品で特に愛着のある製品はアリの退治薬であるアリアツールです。殺虫成分や誘引物質を替えた製品を数十種類作ってもらい、春から秋にかけてほぼ毎週乗鞍高原に通い、塚を作るアカツカアリを対象に同一条件下で効果確認試験を自ら行いました。冬季にはわざわざ種子島まで行き、朽木などに巣を作るルリアリを大量に採取して最終効果試験を行った製品のためです。

また、武田薬品工業の開発製品であるベストガード粒剤（ニテンピラム剤）やダントツ粒剤（クロチアニ

ジン剤)の競合製品のモスピラン粒剤(アセタミプリド剤)を日本曹達株式会社から導入を計画した時、さすがに親会社よりクレームがあり、当時の農業事業部長に導入の理由・目的などを説明して了解を得たことも忘れられないことです。

3) 社外で行ったこと

設立当時は弊社が加入している団体はありませんでしたが、園芸が盛んになるにつれ様々な団体が設立されました。営業関係の団体は営業部が担当しますが、技術的な団体は開発普及部の担当のため、私自身が設立準備委員会から参加した団体も多いです。

1984年(昭和59年)農林水産省は肥料公定規格に「家庭園芸用複合肥料」を加えた改正案を発表、この公定規格の内容は実情にそぐわない点があり、家庭園芸用肥料のメーカーが中心になって家庭園芸肥料協議会を設立(後に用土関係も含めて家庭園芸肥料・用土協議会に名称を変更)、肥料の最低保証量を家庭園芸のみ0.1%に、ビタミン類を効果発現促進剤に含めてもらう、肥料保証票を家庭園芸肥料について簡素化を認めてもらう、用土類では業界の自主基準として使用原料、土壌酸度、元肥の有無などの記載を決めました。

1989年(平成元年)ゴルフ場などで農薬の使用について問題が指摘され、安全使用を推進する団体として緑の安全推進協会を設立、家庭園芸部会を作り、同一成分同一含有量の製品を家庭園芸用に関しては必要な作物や病害虫の範囲で一会社二登録を認めてもらう、登録申請書に記載されていない農薬の使用に関する常識の記載を認めてもらうなどの活動をしました。そのための資料作成時に網膜剥離になり苦労したことが思い出されます。また、協会が「緑の安全管理士」という資格認定を1991年(平成3年)から開始、緑の安全管理士会の初代会長として10年間全国を飛び回りました。

1987年(昭和62年)医薬部外品や農薬に該当しないアリなどの不快害虫防除剤に問題が発生し、不快害虫防除剤協議会(現在は生活害虫防除剤協議会に改称)が設立されました。製品の品質や有効性を保つために協議会として自主基準を設け、基準を満たした製品のみを使用できる登録マークを定めたりしました。

大学生生活

入学と共に現在の緑風会館の場所にあった木造2階建て浩気寮に入寮、団体生活は初めてのため当初は戸

惑うことが多々ありました。部屋数20で1部屋5人、寮長以下の役員を入れて定員は114名と記憶していません。学年が偏っている部屋もありましたが、多くは各学年がそろっていました。入寮した時の室長はゴトウナーセリー熊本でシクラメンなど草花類を生産し、宇城市会議員もしています五嶋英司さん、花卉園芸学研究室ではなく応用昆虫学研究室に在籍、その影響もあつたためか私も応用昆虫学を専攻しました。

一般教養時の西千葉キャンパス時代にはサイクリング部に所属し、休みごとに一緒にまたは単独でサイクリングで日本一周しました。アメリカ大使館で沖縄のビザを発行してもらい沖縄を一周、青森の八甲田山の岩と絶壁の間を降雨の中を下りましたが、ブレーキの効き目が段々悪くなり、ヒヤヒヤの状態でも運転したこともあります。北海道は一人で回りましたが、札幌市内に入るときに工事の砂にハンドルを取られて横転、後続に車がいないために一命を取りとめました。右足の膝の上をケガ、右足が曲げられず4日間札幌に滞在したため稚内はあきらめ、旭川から網走に抜けました。青森から日本海沿いに実家の新潟まで走りましたが、札幌でお金を使いすぎたため残金もほとんどなく実家についてホッとしたことが思い出されます。

5年間在籍したため、入学時と卒業時のクラス会から声がかかり両方出席しています。入った時の同期には前花葉会会長の安藤敏夫名誉教授、出た時の同期には育種の三位正洋名誉教授がいます。

出生から高校時代

兄弟は皆新潟生まれですが、私は1945年(昭和20年)両親の育った疎開先の滋賀県で出生、その後滋賀県へは一度も行ったことがなく全く記憶にはありません。新潟の万代橋近くの礎町に住み、小学校4年の時、1955年(昭和30年)10月1日の早朝に発生した新潟市の大火は、台風の影響で燃え続け、夜空が赤く染まった記憶が今でも鮮明に残っています。我が家も燃え、父親が工場を経営していた村松町(現在は五泉市)に引越し。新潟時代の友達との思い出はあまりなく(兄弟が多かったためか)、名前は思い出せませんが数人で海岸に遊びに行き、浜辺で釜で茹でた越前カニを食べた記憶が、よほどおいしかったためか残っています。

村松時代、小学校は地元の小学校ではなく中心部の村松小学校に転入したため、近所の子供たちとは遊んだことはなく、中学校で初めて知ったという状態でした。当時の村松町は編み物であるメリヤスの産地、敷

地内に工場もあり広く、その片隅に貴重な小遣いで花のタネを買って花壇を作ったこともあり、園芸学部を選んだのもその思い出の流れかと思っています。

愛宕中学校時代の思い出には特記したものはなく普通の学園生活、入学した時の校舎は昔の兵舎を手直したもので暗くて汚い感じ、壁に囲まれた敷地は一周が約4kmあり体操の時間にはよく走られました。立派な体育館がなかったため、冬季の授業は週1回午後から近くの小山でスキー、運動オンチの私でも滑れるようになりました。

同期の還暦の会の時に集まったのをきっかけに、卒業時の3年1組のクラス会（エースの会と称する）を行うことになり、毎年6月に県下の温泉地で集まっています。今年は当初、佐渡の温泉を予定していましたが、急遽隣の群馬県の水上市温泉で開催、毎回20名前後の人が集まり、歳はとつても集まれば昔に若返りワイワイ、ガヤガヤと楽しいものです。

村松高校時代、村松町の4中学校と隣の五泉市の中学校の生徒がほとんどですが、愛宕中学校の卒業生が7割程度おり、半分中学校の延長という感じでした。遊びまわった思い出は多く、先生方には「勉強しろ」とよく怒られました。卒業後に聞いた話ですが、私を

含めて国立大学志望者が女性1人を除いて全員受験失敗（翌年には皆合格しました）、学校で生徒指導や教え方などが問題になったということです。先生方に迷惑をかけたと、今でも申し訳なかったと思っています。

これからの希望

人生60年ではなく現在は90年。来年は75歳になりますので、そろそろ昔風でいうと隠居したいと思っています。といっても家でゴロゴロするのではなく家庭菜園にプラスして不織布ポットを使用した家庭果樹園に挑戦、畑の小屋や駐車場の上に棚を作り、ブドウやキウイなどつる性果樹から始める予定です。



今夏、畑での写真